



『しまの宝』

書き初め大会開催

コロナ、大雪で延期されていた校内書き初め大会が1月27日に実施されました。本来は1月の初めに新年を迎えた抱負として、自分たちの思いを込めて、書にしたための予定でしたが、やっと開催できました。しかし、延期になった期間は、自分が選んだ文字について、じっくり考える時間となりました。3学期を完走しようとする意気込みで、素敵な書に仕上がりました。子ども達の書は学校の玄関に公開していますが、コロナ禍で、地域の皆様に見ていただくことが難しいため、紙面ですが、見ていただきたいと思います。



中学生は四文字熟語を頑張りました。言葉の意味を調べて、自分の今の気持ちに合うものを選びました。「これはどんな意味？」と聞くと、しっかり答えることができるので、驚くと同時にさすがだなと思いました。自信にあふれ、2021年を迎えるには、素晴らしい書き初めになりました。小学生は12月から練習を開始しました。



体育館に一人1枚ずつ「畳」を敷いて、その上で一筆、一筆、丁寧に書きました。時間内に全員が納得のいく書を書き上げ、みんないい笑顔でした。(マスクで隠れています。すみません！)

福太郎さんは「一」の字にかなりの時間をかけて1枚を仕上げました。琉嘉さんは「無」がうまく書けたと思ったら、違うところがダメだあ、とかなり苦戦をしました。蒼士さんは一気に書かず、一文字書いては、先生方の意見を聞いていました。南那美さんは名前がうまくいかず、悪戦苦闘してやっと仕上げました。侑都さんは思い切った筆遣いで自信にあふれた書になりました。書き初めにも子ども達一人ひとりの個性がにじみ出ます。先生方は、子ども達に寄り添って、言葉をかけ、一緒に悩んだり、褒めたりしながら時間を過ごしました。コロナ禍でやれないことも多い世の中ですが、子ども達は日々成長していると感じた1日でした。

これ単(英語)に挑戦

五島市内の全中学校で取り組んでいる英語の単語書き取りテスト、『これ単(「これだけは覚えたい単語」の略)』が1月末に実施されました。今年2回目の『これ単』でしたが、全員が好成績で英語担当の丸田先生も大変喜んでます。壽之亮さんは、満点に1つ足りなかったようで、大変悔しがっていたとのことですが、みんなで必死に勉強して、積み重ねたことは決して無駄にはなりません。かえって、その悔しさがバネになって次に取り組み変化があるかもしれません。そして、それを隣で見ている子ども達の、刺激となり全員が満点を取るかもしれません。小さな学校は、となりの友人の頑張りが手に取るほどよくわかる距離に自分がいます。貴重な体験だと思います。これこそ、「久賀だからできる教育」だと思います。このようなところにも、子ども達の成長が見られます。

↓これ単の練習風景(朝の活動時間にて)



中学生は、朝の活動に「聞く聞くドリル」もやっています。「聞くこと」を重視した聞き取りのトレーニングです。CDで流す言葉を聞き取り、プリントに書き写します。「聞き間違い」をなくしたり「聞く」力を養うことで集中力を高めたりして、人の話をしっかり聞けるようになる、という効果を狙っています。これもまた、小さなことの積み重ねですが、子ども達には必要なことです。そして、英単語の書き取りもそうですが、これから、子ども達が必要だと理解して、自分たちが積極的に取り組むことで、必ず学力が向上していくと思います。大いに期待したいです。

給食週間の取組み

全国で1月24日から30日まで学校給食週間であることから、本校では学校栄養士の末留先生から、学校給食の歴史について話を聞き、学級で考える時間を作っています。子ども達は日常の食生活を見直すことや、給食に関わっている方への感謝の気持ちを持つなどの、機会になっています。29日は、毎日お世話になっている調理場の藤原さんや末留先生に感謝の気持ちを伝えようと、「給食感謝会」を行いました。短い時間でしたが、子ども達が手作りのメッセージ付きカレンダーや花束をプレゼントしました。



この日は子ども達に長崎名物を楽しんでもらうために、「トルコライス」を給食に出していただきました。食材は地元にある車エビの養殖場「拓水」様から車エビを、脇村さんからは久賀の美味しいお米を、子ども達のためにと発注以上の量を提供していただきました。子ども達はお皿から飛び出すエビフライに目を丸くしていました。



↑豪華な久賀島トルコライス！